

6月14日(金)は、元車いすテニス日本代表の岡部裕子さんが来校し、「自分らしく生きる～車いすテニスと出会って変わった世界」の演題で、車いすテニスの実技体験と講演をしてくださいました。

那賀町木頭出身の岡部さんは、小学校1年生の夏休みに突然歩けなくなりました。小・中・高校の12年間家族と離れて医療施設で暮らしながら支援学校へ通うことになった岡部さん。『歩けなくなっただけなのに、生活環境や周りの人の態度はすっかり変わってしまった。できないことや、不得意なことは誰にでもあるはずなのに、歩けないことの何がそんなに特別な?』という思いがやがて、『自分の人生は、自分で面白くしよう』と変わっていったといいます。

そんな岡部さんは、車いすの生活の中で、できないことをできるようにするために方法や工夫、努力を毎日何度も考えて繰り返しています。岡部さんが感じる「障害」とは、自分と周りの人の認識のずれであり、車いすに対する人の偏見や、車いすでは暮らしにくい社会環境によって作り出されるものだったのです。

また、車いすテニスの大会に参加するために海外に行った経験から、日本と欧米の違いについても話してくださいました。日本では、障害を持つ人は、サポートされる人で、障害を持たない人はサポートする人、という一方通行の関係だけでも、欧米では、障害に関係なく一人の人として接し、楽しみながらサポートしているという違いがある、ということも教えてくださいました。

『自分らしく生きる』ために大切なこと

- ① 自分を知る
- ② チャンスをつかむ準備をする
- ③ 大事なことはちゃんと伝える
- ④ 自分で決めて行動する
- ⑤ 社会の一員として努力する



6月17日(月)には、大湾昇先生が「同和教育の良さを生かした人権教育」の題で講演をしてくださいました。

「何で私なの?」という言葉についての話を聞いたとき、なるほどなぁ、と思いました。この言葉について深く考えたことなんてなかったし、自分も意識せず使っているかもしれないと思ったので、これからは考えを改めて、口にしないよう気をつけていきたいです。

大湾先生が僕たちに「差別とはどういうことを言うのか分かる?」と話してくださいました。僕は、差別とはどういうことか分かっておらず、曖昧な解釈をしていたことに気づくことができました。大湾先生は僕たちに「差別とは自分がどれだけ努力しても変えられないところを悪意をもって攻撃することを言う。」と話してくださいました。僕はそのとき、「確かにそうだな」と思いました。

大湾さんが、実際にあった出来事を話して下さって「自分は変わることができた。」というのを聞いて、人は変わることが出来るから、たくさんの人に人権について知ってもらうことが大切だな、と思いました。私も、自分の差別に対する思い込みや偏見を変えていきたいです。



心理クイズから話が始まりました。「知らない」ことの怖さに気づかれました。

大湾さんの家にある漫画部屋のはなしで盛り上がりました。



# 家庭人権学習の日 (毎月第1日曜日)、ご家族で読んでみてください!

## 7月3日 (水) 校内人権意見発表会を実施しました。

学年	題	発表者
3年	『逃げない心』	美濃 悠之介
3年	『気遣い』という名の『重し』	片山 果音
2年	『犯罪被害者の家族やその人の人権』	関 朔太郎
2年	『障がい者について』	町田 晋太郎
1年	『自分らしく生きる』ということ	北内 新良太
1年	『支え合う社会へ』	阿瀬川 泰伸

以上の6名が、普段感じていることや人権学習を通して考えたことをテーマに意見を発表してくれました。意見発表後の意見交換でも活発な意見が交わされ、みんながお互いの人権について考えを深める時間となりました。

僕は、関さんの意見が気になりました。なぜなら、犯罪者だけでなく、犯罪者の家族が批判される。これはだめだと思ったからです。メディアの切り取りも、自分の都合のいいように放送するのはどうかと思います。これからはメディアを100%信じるのではなく、疑うことも大切だと思いました。

また、僕は意見発表をしました。よい感想をたくさんもらいました。これからはみんなの人権に対する意見を参考に、様々な角度、視点から、物事を考えていきたいです。そして、書いたことを実行し続けて、もっと自信をもって意見を言える人になっていきたいし、相手のことを考えた行動をしていきたいです。

今年の校内人権意見発表会では、去年と違い、その内容が分かりやすく感じました。特に、実体験の話や、記事などの話がわかりやすかったです。それは、多分去年の校内人権問題意見発表会の時より、人権のことについて、より深く考えられるようになったからだと思いました。

今年の意見の内容は、どれも自分が共感するものばかりでした。人権について、より深く考えられるようになった分、自分も他の人に対して差別的な発言や行動を取ってしまったかとも思い、記憶をたどってみました。しかし、何もありませんでした。

でも、ふとこのとき、差別をした側の人間だから記憶がないのでは、ということに気がつきました。そう考えると、罪悪感でいっぱいでした。だから、これからは自分の行動について改めて考え、他の人に対する差別的な発言や行動がないか考えたいです。そうすることで広い意味の平和にも繋がるはず。そして、そのことを自分以外の人にも分かってもらいたいです。

私は、6人の人権作文を聞いて、みんなの気持ちがとても表れているように感じました。人によっては、自分のこれまでの気持ちが大きく変化し、それを反省するような話もあって、社会の人権問題に深く考えを巡らせていることが分かりました。私が特に印象深く感じたのは、阿瀬側泰伸君の「支え合う社会へ」という作文です。始終泰信君の家族思いな温かい気持ちが伝わってきて、とても感心しました。しかし、その背景にあるお年寄りの人権問題や少子高齢化などの深刻な問題は各地で次々と起こっているのだと分かりました。もちろんここ加茂谷もその一例なので、私も泰伸君を見習って、自分にできることをしたいと思いました。

また、片山果音さんの作文も、印象深かったです。車いすテニスの岡部さんの講演を元に話がありました。岡部さんのおっしゃっていた「私にとっての障がいは、他の人との認識のずれにあった」という言葉には、講演の時に私もとても考えを改めさせられたので、片山さんの作文には非常に共感しました。みんなの作文を聞いて、自分のいろいろな方向からの意識が改められたなと思いました。



6人が意見を発表しました



発表の後意見交流をしました



校長先生の講評